

奈良県立大学 平成 15 年度 観光学特別講義
全体テーマ「地域からみる観光」開催

観光学特別講義は、15 年 10 月から 16 年 1 月まで 13 回開講されている。12 月 6 日、「イベントによるまちづくりと観光」というテーマで、「なら燈花会の会」会長 朝廣 佳子さんが、今まで実行されてきたイベントについて講義された。

99 年、大晦日に若草山に 1,000 人登って人文字をつくる「カウントダウン 2000 in NARA」というイベントを企画。最初は「行政から前例がない」と言われたが、「前例を覆さないと、いつまでも変えられない」と切り返し、認められたもの。当日はテレビ朝日が全国中継したので反響が大きかった。

なら燈花会は、夏の奈良公園一帯を輝く約 1 万個のろうそくの灯りで照らす行事。奈良に観光客（特に若者）を集めようとして企画し、99 年度から始めた。会期は土日が 2 回入る 10 日間とした。初年度は 9 日間で来訪者 170 千人、サポーター延べ 800 人でスタートした。

今年度は、9 会場をサポーター延べ 2,000 人で 1 万 2

千灯に点火。雨天中止が 3 日間あったものの来訪者 355 千人を数えた。奈良市観光課試算によると、14 年度なら燈花会の経済波及効果は約 23 億円、間接効果を含めた効果は約 42 億円となった。

まちづくりのキーワードは「みんなが主役のまちづくり」「チャンス逃さない」「最後はやる気と根気だ」などと説明されていた。（上田）



「なら燈花会の会」会長 朝廣 佳子さん